

あゆみ

氷川学園広報部

〒869-4602 八代郡氷川町宮原1116

TEL (0965) 62-4081

FAX (0965) 62-4080

Mail hikawagakuen@seiryu-hikawa.com

HP <https://hikawagakuen.com/>

氷川学園

autumn sky

～秋空～

～氷川学園駐車場からの夕景～

聴く力：リーダーとして

一気に気温が下がり、エアコンのスイッチを、昨日と今日とで切り変えなければいけないほどである。季節の移り変わりをゆっくりと楽しむことが程遠い此の頃であり、寂しささえ感じる。

そんな中、幸いにも全国的にコロナの感染者の減少が続いており、様々な制限も一気に緩和されてきている。第6波到来の心配の声がありながらも、人流も一気に動き出している。何でも、中庸というものがなく、極端な変化が目立ち、それだけに不安が伴うのは、私だけだろうか？

政治の分野でも変革が起きて？起こそうとされている？

自民党の総裁選で選出された「岸田文雄氏」が、衆参両院本会議で、第一〇〇代首相に指名された。日本のリーダーたる首相になられた岸田氏は「私の特技は、人の話を聞くことだ。」と、話されている。素晴らしいことだ。自分の意志・意見を「話す」ことは、政治家にとって得意分野でなければいけないのは必須だろうが、「聞く・聴く」という行為は、ある意味その逆であるが、聞き役に徹することは、そう簡単に出来ることではない。それを「特技」と言われる人が、我が国のリーダーとなられたことに、大いに期待するものである。

翻って、私には、その「聴く力」がどれほど備わっているだろうか？自省することが多い。私は、ここ「氷川

学園」の施設長であり、清流会の五事業の代表を務めており、仮にもリーダーとされる立場にある。そのリーダーとして、利用者さんやそのご家族はもちろん、共に働く仲間たちの声をどれだけ聴くことが出来ているか？甚だ疑問である。当然、みんなの声を「聴きたい」と願って、努めている。聴けている、と言いたいところではあるが、正直そこまでの自信はない。

みんなの声を聴く機会は、本来日常の随所にあるべきことだが、敢えて、利用者さんの自治会「たけのこ会」を設け、意見や希望に添えるよう生活の中に反映、ご家族の声も随時受け付け、毎月の「えんだより」への掲載（ご意見箱）等で、聴きっぱなしではなく、何某か応えていく姿勢を取るなどしている。

共に働く仲間たち、スタッフの声を聴く機会は、様々な会議の席、又、人事考課などの面接の際、各種アンケート実施などが挙げられる。そして、そういった設定された機会だけに絞らず、普段から話し掛けてもらいやすい雰囲気・空気を出して欲しいと心掛けてはいるつもりで、良く立ち寄っては諸々話をしている。思われるスタッフも少なくはないと思われているが、よく考えてみると、それも限られている人のような気がする。近々で入職した人や若手と類される人たちの中には、ついでにでも私の所へ立ち寄り話していく等しづらいのだろうと思われる節は有るのも否

めない。私の方から話しづらい空気を出しているのなら、と、自省する。

氷川においてはスタッフがPC上に、様々な気付きや意見・要望などを記し、それを毎月の運営会議（サピ管・主任クラス）で取り上げ、協議した内容を全体の職員会議で返す、という取り組みをしている。様々な声が寄せられるのだが、先日「支援をしている際に抱く心許なさ、不安、よぎる想いについて、協議をというより、知っていて欲しい」という声が上がってきた。当然、協議して何らかの答えを出すということが難しい内容に、運営委員一同も悩ましく思ったのだが、それでも委員みんなが其々に想いを話し合うことが出来た。そのきっかけを提供してくれたことに感謝である。そして、それを受けて職員会議で、私なりの見解を話させていたのだ。正直、匿名だったので、その会議に当事者が参加出来ていたかも知解らないが、誰であれ、仕事をしていて不安を抱える人が一人でもいれば、少しでも払拭していきたい、共に背負いたいと、精一杯の回答を返したつもりだ。

「人の話を聴く」ことは難しい。そして、その聴いた話を、聴きっぱなしで終わることは出来ない。具体的に伝えていくことをしなければ意味がない。それは聴くこと同様難しいことだが、その努力を怠ってはいけなない。聴いた以上、知った以上、無かったことにはできない。完璧な回答が出せずとも、向き合い動くことはし

なければと思っている。

その難しさに悩む中に出会った一冊「ブレイディみかこ」氏の「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー2」。ブレイディ氏の一三歳になる息子さんの中学校生活を通して語られる世界は、大人社会の縮図である。ある日、学年委員なるものに推薦された息子さんがその面接の準備に書いていた一遍が有る。前もって知らされていた質問の「リーダーに必要な資質は何だと思うか」に対し

桜の樹の下で

「LEAD BY EXAMPLE・・・言葉だけで指示するのではなく、自分がまずやって見せることが大事」「導く(LEAD)ということとは、前から引っ張るということではなく、時には一番後ろに立ち、後部が離れてしまわないように押し上げる(PUSH UP)こと」と書かれている。一三歳の少年の言葉が、心の中にストンと落ちていった。リーダーというのは、先頭に立ち引っ張るだけでなく、外れていってしまえばもう人の後ろに立って支えていく、離れてしまわないように押し上げていく、時には一番後ろに立つことも大切な役目だと、教えられた。声に出して言える人だけではない、声なき声にも、どう応えていくか、容易なことではないが、先ずは「聴く」努力は忘れず持ち続けていたいと思う。

窓の向こうから、園内散策中の利用者さんとスタッフの一緒になった笑い声が聞こえてくる。

施設長 西坂千賀子

支援員の窓

十八歳で水川学園に就職し、早十八年三十六歳……。あの時、握っていたコーラが今はビールに……。体型もほっそりからビールっ腹に成長しました。(笑)

農業高校から福祉の知識・経験もなく就職しました。利用者さん・先輩職員の皆さんより、沢山の人の支えられてここまで続けることが出来ました。農業高校を卒業しましたが、農作業においても利用者さんから教えてもらうことばかり。藁の結び方、荷物のカシメ方は、今は車椅子利用になられたTさんから教えて頂きました。「ぎゃんしてぎゃんしてきゃんたい」と。(笑)

現在、農作業を行う事は厳しい状況ですが、いつか必ずまた畑を使って野菜や作物を利用者さんと一緒に作りたいたいと思っています。その時は、自分に色んなことを教えて下さったTさんにも、今は外で作業は難しいかもしれないけれど、お茶でも飲みながら見学してもらって、「智行成長したな」と見て頂けたら良いなあ、つと野望を抱いています。有言実行できるよう、今後とも1日1日を大切に日々頑張つて行きたいと思っています。

(入所部主任 山下智行)

十三年前、介護職の経験や障がいについての知識が無いままに水川学

40th anniversary

園の門を潜り、不安いっばいで新たな一步を踏み出したことを、昨日の事のように思い出します。

入職前に実習に入った時、ある女性利用者様の行動の理解が出来ておらず、「怖い」印象を持ってしまいました。あれから十三年。多くの利用者様が一緒に手を繋ぎ歩いて下さり、握り返される手の温もりと、ささやかな力に、心が「キュン」とする毎日です。これまで一緒に過ごさせて頂いた歳月を経て、繋いだ手に、生命と信頼と、愛情を深く深く感じる様になりました。手を繋いで下さる度に「キュン」と心が震えています。同性の利用者様のみですが。(笑)

こうして、日々、利用者様の笑顔や温もりに、心を満たしていただいております。まだまだ十三年目の若輩者ですが、その手の温もりを感じ、微力ながら、『その手の温もりを守りたい』との思いで一杯です。これからも、ほのぼの「キュン♡」の至福のひと時を、心の糧に、寄り添わせて頂きます。

(通所部主任 竹崎 千鶴)

40th anniversary

水川学園に入職して七年目になりました。利用者の方の支援をさせて頂いておりましたが、日々変化している事や新しい発見があります。そんな中、利用者さんにとって最善な支援に結びついて行ける様に、精進していきたいと思えます。又、日中活動の場面では、逆に私が教えて頂く事が多く、「この人はこれを行うのは難し

いのではないか？」等の先入観を抱いてしまう事ある為、一人ひとりの個性を尊重し支援を行いたいです。

(入所部支援員 今村 貴子)

専門学生の時に実習でお世話になり、ここで働こうと決め入職して三年が過ぎました。先輩職員や利用者さんに支えられ、今もこうして働くことが出来ています。利用者さんに朝出勤して会ういつも「おはよう」や朝が本当に弱く「眠そうだけど起きたね」などと声を掛けて頂き、帰る時には「お疲れ様」や「気をつけて帰らなよ」・「またね」と声を掛けて頂きます。体調不良で休んだりして、復帰した日には「大丈夫？無理しないようにね」など温かい言葉を掛けてくれる利用者さんが多く、本当優しいなと思えます。年齢が娘や孫くらいの歳になるので、「結婚はまだか」「子供はよ見たかね、楽しみにしてるよ」と言つて頂き、なるべく早く期待に添えるように出来たらなと思えます(笑)ありがたいことに「寂しくなるから結婚せんで、泣くけん」と言つて下さる利用者さんいらっしゃいます。

40th anniversary

まだまだ利用者さんよりも人生経験も短く未熟で、利用者さんに助けて頂くことも多いですが、自分らしく利用者さんのニーズに沿った最適な支援を行っていただけらなと思えます。また、もつと様々なことを学んでいける様、努めていきたいと思っています。

(入所部支援員 五反田 莉沙)

40th anniversary

水川学園に入職して六年目になりました。これまで沢山の経験をさせて頂きました。学園祭や音楽会、グループ旅行などのイベントで、利用者さんと一緒に準備や練習をしたこと、一緒に笑ったり楽しかったことを色々と思い出します。その次に、自分がこれまで数々の失敗もしてきたことを思い出して、なんとも不甲斐ない気持ちになつていきます。そのたびに、利用者さんや周りの方に沢山助けられてきました。

利用者さんの顔を見て、何気ないやりとりにホッとしたり安心することが沢山ありました。

今、自分の身近には、利用者さんやご家族、先輩職員、今では後輩職員もいてくれます。いつも周りの方に支えられ、助けて頂いているお陰で日々を過ごすことが出来ています。それは決して当たり前のことではないんだなと感じています。周りの環境や、利用者さん一人一人の状況も、変化していくことに少し寂しく感じることがありますが、だからこそ利用者さんと一緒に過ごす時間を大切にしていきたいです。利用者さんやご家族に喜んでもらえるような支援が出来るように、安心して任せてもらえるように、一歩ずつ成長していきたいと思えます。

(支援員 平崎 珠貴)

40th anniversary

次回冬号 40周年記念誌版
【支援員の窓・全員集合】
を掲載いたします。

氷川からの秋だより



わら入れ



栽培

イチゴの苗植え



カクテル作り



スイカの型抜き「映え」てます!!

調理



野菜スタンプ



学園で育てた野菜とれんこんを使って

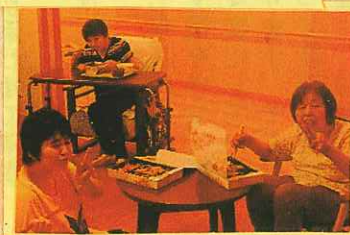
制作



キャンドル作り



テイクアウト昼食



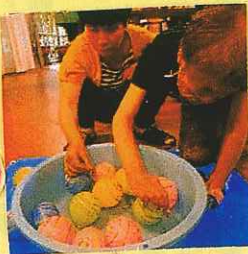
久しぶりに皆で集まり、お弁当

プリン作り



運動

ヨーヨー釣り



ミニミニ納涼祭



中庭でビーチバレー

輪投げ



わたあめ作り



しゃべり玉飛ばし



学園を散策中!!



送別会

ほれほれ班の皆さんと

たけのこ会



退職される後藤さんと記念写真



熱中症予防の勉強会

9月

誕生会

8月

プレゼントは
フラワーデザイナー



お誕生日おめでとう!!

みんなで一輪挿しをしてお祝い

お祝い御膳



敬老のお祝い



10月

ハロウィンパーティ



ホラーマンも登場!!



手作りパンクンパイ



仮装は厨房スタッフと一緒に

ひかわの森 マルシェ

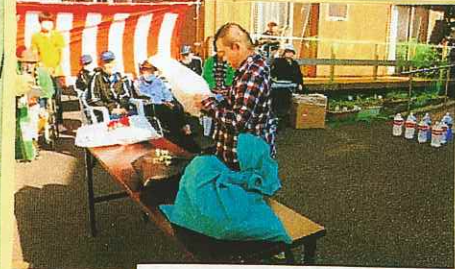
in 入所部

「活動班対抗! ボウリング王は誰だ?」



開会宣言

たけのこ会より
池田ナルミさん



一等は「サニー班」景品ゲット!!



カレーにポテト、
焼きそば等々、
ごちそうかいっほい!!



石原さんがカメラ向ける先は..千賀子さん!!

手作りうちわで
応援中。



ごちそうかいっほい!!

みんなで「歌って踊ろう」



職員によるソロライブ!! 秋の音楽祭

バックダンサーも
飛び入り!!



「海」「好きになっ人」「ソラノ節」



野瀬信壽様 池田美詠子様
嶽本拓夫様 福岡信幸様

(株) ケアパーク様

氷川中学校様

社会福祉法人 吾子の里 きずな学園
理事長 十島真理様

沢山のお心遣いありがとうございます。
心より御礼申し上げます



新入職員



FRESH!!

なかせるみ
仲瀬留美さん (入所部)

せのうえまさたか
瀬上雅貴さん (入所部)

やまだあい
山田愛さん (入所部)

まつざかさちこ
松坂紗智子さん (通所部)

とよだえいこ
豊田詠子さん (風楽)



《代表して瀬上さんより一言》

支援員として皆様のお手伝いを頑張ります。ご迷惑おかけする事が多々あるとは思いますが、精一杯努めて参りますのでよろしくお願い致します。

お知らせ



例年、この時期よりもち米の販売お知らせを致しておりましたが、利用者様のご高齢に伴い農作業活動が厳しい状況になり中止をしております。お待ち頂いていた皆様には申し訳ございません。

これまでのご愛顧、本当にありがとうございました。

また、再開する日が来ましたらご連絡致します。

行事

11月3日

ひかわの森マルシェ



【会場】



【露店】



【催し】

12月23日

クリスマス忘年会

※新型コロナウイルス感染拡大防止を行いながら実施しております。

【毎月開催】

たけのこ会

誕生会



編集後記

この時期に氷川学園で開催されるイベントといえはひかわの森マルシェです。去年に引き続き新型コロナウイルス感染防止の為、規模を縮小して行っています。入所の利用者の皆さんの楽しまれている姿が5面に沢山掲載されているので是非ご覧ください。

12月には、恒例のクリスマス忘年会も実施予定です。このまま新型コロナウイルスも収束し、少しずつですが、利用者さんにとって楽しい一時を開催出来ればと思います。次回冬号で皆さんの笑顔をお届けします。

